

施策	27	文化芸術の振興				政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり	
施策主管課	文化会館		課長名	小木曾 学	内線	4220	政策担当部長名	教育次長 澤柳 陽一	
施策関係課名	生涯学習・スポーツ課・美術博物館・中央図書館・公民館								
重点施策	○	関連計画	地育力向上連携システム推進計画						

1 施策の目的

目的	対象	市民							
	意図	①いつでも誰でもどこでも気軽に親しむ ②自己表現の機会が得られる ③文化活動を主体的に担う ※①の意図は、「日常的に文化芸術に親しむこと」と定義する。							

2 現状把握

(1)対象指標、成果指標の状況

対象指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み 28年度
①	住民人口	人	105,691	105,335	104,728	103,947		102,000
成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標 28年度
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
①	文化芸術を鑑賞したことのある人の割合	%	64.1	63.6	62.7	60.6		65.0
②	文化芸術活動を行っている人の割合	%	32.1	29.4	26.0	27.8		33.0

(2)成果向上に向けての役割分担

主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	23年度 実績	24年度	25年度	目標 28年度
行政	①文化芸術を鑑賞し、活動を行える施設を整備する。 ②文化芸術に関する情報を収集し、提供する。 ③文化芸術の担い手を育成する。 ④小中学校、高校で文化芸術の担い手を育成する。 ⑤市民等による鑑賞機会の提供、創造活動、ネットワーク作り活動を支援する。	①-1文化芸術施設数(文化会館、人形劇場、公民館(地区館を含む)、美博、黒田人形浄瑠璃伝承館、今田人形の館、竹田人形館、川本人形美術館、創造館 単位:館)	①-1 30	30		30
		①-2文化芸術施設延べ利用者数(①の施設の利用者数の計 単位:人)	①-2 1,031,421	1,006,638		102万
		②-1ホームページ開設数(実績把握 単位:個)	②-1 12	12		11
		②-2市広報誌等掲載回数(実績把握 単位:回)	②-2 288	427		210
		③担い手育成事業数(実績把握 単位:回)	③ 611	906		400
		④小中学校、高校で実施した担い手育成事業数	④ 37	52		45
		⑤-1市教委等が共催、後援した文化芸術関連の事業数(実績把握 単位:回)	⑤-1 260	248		240
		⑤-2文化活動や創作活動を支援した団体数(文化系社会教育団体、施設利用減免団体、その他育成団体 単位:団体)	⑤-2 1618	1766		1,700
主体	役割分担	ムトス指標と把握方法と単位	役割発揮の特記事項			
市民等	個人	①文化芸術を鑑賞する。 ②文化芸術活動を行う。	①文化芸術活動を鑑賞した回数 ②文化芸術活動を行った回数 ①暫減傾向にある。 ②H24は微増であったが、中期的には暫減傾向にある。			
	団体	①文化芸術を鑑賞し活動を行える機会を提供する ②文化芸術活動の担い手のネットワークをつくる ③地域の文化芸術活動への積極的な支援を行う	①鑑賞又は活動機会の提供を実施した回数 ②-1ネットワークの数 ②-2文化芸術活動を企画運営する実行委員数 ③支援を行った回数 ①施設に状況は変わらないが、利用は減少した。 ②チラシ等による告知は、積極的に行われている。 ③人形劇に係るワークショップの開催、小中高生を対象とした育成事業は充実している。			

3. 平成24年度の評価結果

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

<input type="checkbox"/> 計画どおり取り組めた
<input checked="" type="checkbox"/> おおむね計画どおり
<input type="checkbox"/> あまり取り組めなかった
<input type="checkbox"/> 達成できなかった

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

<input type="checkbox"/> 進んだ
<input type="checkbox"/> ある程度進んだ
<input checked="" type="checkbox"/> あまり進まなかった
<input type="checkbox"/> 進まなかった

4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

成果指標である「文化芸術を鑑賞したことのある人の割合」60.6%、「文化芸術活動を行っている人の割合」27.8%で、中期的に見ると、減少傾向にあるため「あまり進まなかった」と評価したが、一方では国の調査(文化に関する世論調査・平成21年11月調査では、62.8%、23.9%)と比較すると主体的に文化芸術活動に取り組んでいる市民の割合は高い水準にある。これは、伊那谷文化芸術祭、人形劇フェスタ、オケ友音楽祭など市民が事業の企画・運営に主体的に参画する飯田の特徴的な活動への市民の参加意識が高いことを示すものである。これらにより、オケ友音楽祭や人形劇フェスタ等に関わる県内外の専門家からの市民の文化レベルの高さへの評価につながり、事業の継続性に結び付いている。

【事務事業群テーマ別の評価】

<文化芸術施設の整備・維持管理>

・利用者の利便を図りながら、使用料及び減免規定の見直しについて研究を行った。(H25継続)

<参加しやすい鑑賞機会の提供>

・若者を対象としてJポップコンサート等を開催したことによって、文化芸術鑑賞における裾野を広げることができた。
・正宗得三郎展と絡めて、正宗にゆかり深い長野二紀展を開催することができた。
・日夏耿之介記念館の展示を定期的に行い、来館者に新たな情報を提供できた。

<自己表現の機会の提供>

・人形劇に係るワークショップを、60歳以上を対象として実施、発表会も開催した。また、講師陣も二人体制としたことにより、きめ細かな指導を受けることができた。
・また、おおた芸術学校の付属オーケストラ(子どもによる構成)を招聘し交流演奏会を開催し、地域の子どもたちへの刺激となった。
・小・中学校における人形劇制作の取り組みに対し、講師派遣、指導者研修、中学生合同講習会の実施等による支援を行い、子どもたちの創造性、表現力を高めることができた。

<文化芸術の担い手育成>

・オケ友音楽祭クリニックでは、基礎コースを2段階に分けて開催したことにより、音楽クリニックの効果をより高めることができた。
・人形劇ワークショップの実施により、参加者が、脚本制作や美術制作に関する専門的な知識、技術を学ぶことができた。
・パスポート会員向けの事業を積極的に開催し、美博のリピーターを確保できた。
・「伊那谷の自然と文化」に係る市民研究団体の活動を支援し、一緒に事業を展開することができた。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

市民主体、多様な主体の協働による文化芸術活動の推進及び人形劇を通じた「小さな世界都市」づくりのため、次の事項に取り組む。

<文化芸術施設の整備・維持管理>

・使用料及び減免規定の見直しを行い、施設間の均衡、利用者の利便の向上を図る。

<参加しやすい鑑賞機会の提供>

・オケ友音楽祭、舞台芸術鑑賞事業などの実施内容を、ニーズ等も踏まえて見直し研究を行う。
・人形劇フェスタにおいては、アジア人形劇フェスティバルを同時開催し、様々な人形劇を楽しむ機会を提供する。
・平成19年以来の長野県展を開催することで、多くの市民に鑑賞の機会を提供する。
・日夏耿之介に関する見学会を計画し、日夏だけでなく中心市街地の魅力再発見を視野に入れる。

<自己表現の機会の提供>

・ワークショップ等の成果を踏まえて、フェスタ等発表の機会を提供し、主体的な活動の継続を支援する。

<文化芸術の担い手育成>

・オケ友音楽祭クリニックの成果をさらに高めるため、カリキュラムを改善する。
・パスポート会員について、家族向けやプレミアムなどサービスの内容等を見直す。
・「伊那谷の自然と文化」に関する市民研究団体との関係を見直しながら、その活動を一層支援する。